

平成 28 年度文字文化財研究所事業報告

伊藤 伸江

平成 28 年度も、大学全体の厳しい財政事情を反映して、研究所の年間事業予算は削減されたままでしたが、継続して調査・研究・教育関係に力をそそぎ、地域に積極的に関わって事業をおこないました。

【稀書の会】

稀書の会は、本学学術情報センターが所有する貴重書から、『弥生日記』の輪読を行なっています。ほぼ毎月一回、図書館会議室にて輪読し、輪読の成果は、継続して文字文化財研究所紀要に掲載し、俳文学会の論文目録にも登録し、国文学研究者が閲覧しやすいようにしています。岡崎と刈谷の俳人の手になる『弥生日記』は、文化・文政期の尾張三河の高い文化水準を示す作品であり、作品の理解を深めるために、毎年実地踏査も行っています。本年度は 9 月 19 日（祝）に碧南・刈谷方面の史跡をめぐり、碧南の俳人中根樸堂のゆかりの中根様宅にて多くの書画を、また安城市歴史博物館にて卓池・秋挙・士郎関係の所蔵資料を見せていただきました。また、稀書の会では、例年、学術情報センターと連携して学術講演会や企画展示を行なっており、今年度は、第七回貴重書展示「愛知県史を彩る俳人たち 2—士郎・卓池・秋挙らと五仲庵—」（長久手キャンパス図書館 1 階ロビー・11 月 2 日～11 月 30 日）を行いました。安城市歴史博物館から資料をお借りし、また客員共同研究員の堀川貴司慶應義塾大学教授の協力を得て、本学貴重書はさみこみの俳人たちの手紙を解読するなど、意欲的な試みができました。加えて、実地踏査に参加した学生たちが作成した踏査報告のパネルも展示しました。

また、本年度、稀書の会は、書誌の専門的知識が必要な学術情報センターの

貴重書解題作業に協力しました。年内に、高木市之助氏旧蔵書の解題を終了予定です。解題作業で得られた知見は、本紀要に「本学図書館貴重書調査～書誌の窓から」として紹介しています。

稀書の会は、院生の研究者としての能力育成の場でもあり、また学部教員が、地域の文化を守り伝え、支えていく人材として院生・学生を育てていく場ともなっています。

【共同研究とその成果】

客員共同研究員の堀川貴司慶應義塾大学教授は、9月7～9日に本学にて調査を行い、その成果を本紀要に掲載しています。客員共同研究員の熊澤美弓氏は、8月11～12日に飯能市方面にて調査を実施し、その成果は民俗学会大会（10月2日、於千葉商科大学）で発表され、本紀要に掲載しています。国語学の福沢・久保蘭教員が行っている外国資料研究会は、川口敦子三重大准教授、斎藤文俊名大教授と研究会を行っています。来年度開催予定のシンポジウムに向けて成果を蓄積しており、本紀要には斎藤教授が寄稿されています。

また、9月9日には、堀川教授による、江戸・明治の文人たちの書跡・書簡を読み解く講演会を学生・院生向けに開催しました。学術情報センターの協力により、多くの貴重書の会場展示もあり見学の時間もとりました。

【紀要刊行】

『文字文化財研究所紀要』第3号の刊行。

本冊子をご覧の通り、堀川・斎藤・熊澤氏ら3名の客員共同研究員の論文など、本学部教員および客員共同研究員の充実した多彩な研究成果を盛り込んで、無事刊行することができました。

【研究所会議】

今年度は研究所会議を以下の通り4回開催しました。

第1回文字文化財研究所会議

開催日時：6月8日（水）12時10分～13時

開催場所：文字文化財研究所（H302）

出席者：伊藤（所長）、久富木原、中島、上川、成瀬（学務課職員）

議題：H27年度決算・H28年度予算計画

H28 年度事業計画

第 2 回文字文化財研究所会議

開催日時：8 月 9 日（火）11 時 30 分～12 時 30 分

開催場所：文字文化財研究所（H302）

出席者：伊藤（所長）、久富木原、中島、上川、成瀬（学務課職員）

議 題：H29 年度予算請求計画

文字文化財研究所紀要

第 3 回文字文化財研究所会議（メール会議（9 月 28 日））

報告：共同研究成果報告書

第 4 回文字文化財研究所会議（メール会議（10 月 20 日））

議題：客員共同研究員申請について

【事務報告】

平成 27 年度の研究所の予算・決算報告は以下の通りです。

項 目	予算額（円）	決算額（円）	内 容
研究所年報	540,000	498,800	印刷費、送料
文献・文物の調査	95,000	53,390	研究員調査旅費、アルバイト給与
研究資料購入	50,000	23,020	
物品購入	200,000	183,384	
		112,784	消耗品、図録送付代
合 計	885,000	871,378	

なお、平成 28 年度の研究所予算も、前年度と同じく 885,000 円でしたが、紀要の刊行・発送などに約 60 万円、稀書の会や客員共同研究員などの研究旅費などに約 10 万円、物品購入の少ない今年度は、研究活動を支える資料購入費、消耗品費などに約 18 万円を支出する予定です。研究事業を支える事業活動予算の確保は、大きな課題としてあり続けます。